

ヨーロッパ文学の中のデンマーク・バラッド

収集・翻訳・アダプテーション

(奥山裕介)

2022年3月26日

日本バラッド協第13回会合

1. 史料からみるバラッド演奏の情景

- アウグスティヌス修道会士ヴィルヘルムの日記…パリからデンマークに赴任した 1165年、ロスキレ・フィヨルドのエスキルスウー島 (Eskilsø) の祭礼で修道僧とその縁者の男女が飲み食いし、歌いながら輪舞する光景を目撃。
- 南シェランのウアスリウ教会 (Ørslev Kirke) の壁面に描かれた騎士・貴族令嬢たちの「鎖おどり kædedans (合唱ダンス kordans)」(1325年ごろ制作)



- 『スコーネ法典』のルーン写本 (codex runicus) の末尾に書き込まれた歌の一節とネウマ譜 (1300年頃)。「昨夜夢を見ました、絹の衣と本物の毛皮の夢を (drømde mik en drøm i nat um silki ok ærlik pæl)」とある。記入意図は不明。



- イーレク・ポントピダン『デンマーク地誌 Den Danske Atlas』第4巻 (1768年)

「フーア島住民の婚礼や会合では、つつまじやかな宴が営まれるようだ。ここの住民は楽器を扱うことをしないが、歌に合わせて舞い踊ることを楽しみとし、そのさい女も男もみな声を和して歌い、古い英雄バラッドや他の歌にふれて祖先の事績に思いを馳せるという」(s. 767)

2. 近世の歌謡収集・編纂

- 16-17 世紀に歌謡本（poesie-bøger）が貴族階層の間に普及。49 の手書稿本が伝存。
- 人文主義と印刷技術の普及にともない、古歌謡収集の気運が貴族社会で高まる。
- 17-18 世紀にかけて一枚刷りのバラッドが民間に普及。



ハート型手書稿本（Hjertebogen、1550 年代制作）…クリスチャン 3 世時代の宮中サークルで編まれる。収録歌 83 曲の 4 分の 1 が民間バラッドで、残りは宮廷内に伝わる抒情的な恋歌。

アナス・サアアンスン・ヴィーゼル（Anders Sørensen Vedel 1542-1616）

ルネサンス期の修史官。王太后ソフィアの依頼で口承・書承の古歌を貴族階層の女性から採集し、『デンマーク・バラッド百選 *Hundrede udvalde Danske Viser*』（1591 年）を版行。



ピーザ・スユウ（Peder Syv 1631-1702）

文献学者。ヴィーゼルの歌謡集に英雄バラッド（Kæmpeviser）100 曲を追加した『デンマーク・バラッド百選補遺』（1695 年）を刊行。ドイツ語圏・英語圏で積極的に受容される。



メデ・ゴイイ (Mette Gøye 1599-1664)

ヴィーゼルの歌謡集に入らなかった恋愛バラッドをまとめて歌謡集『トラギカ *Tragica*』(1657年)を編む。

カーアン・ブラーア (Karen Brahe 1657-1736)

メデ・ゴイイの旧蔵書を元に、オーゼンセに国内初の私設アーカイヴ「貴族令嬢修道院図書館」を設立(1716年)。約200篇のバラッドふくめ3400点にのぼる印刷物と約1150点の手書稿本は1907年にオーゼンセの地方文書館の管理下に入り、2010年ロスキレ修道院に移管。2012年には「カーアン・ブラーア蔵書 (Karen Brahes Bibliotek)」としてUNESCO「世界の記憶」にノミネートされる。



H・W・ゲルステンベルク (Heinrich Wilhelm von Gerstenberg 1737-1823)

『シュレースヴィヒ文学通信 *Schleswiger Literaturbriefe*』(1766-68年)を発行。古典ギリシャ・ラテン語文学に対し、シェイクスピア、ミルトン、古ノルド語詩(エッダやスカルド詩)、『オシアン』、トマス・パーシー『古英詩拾遺 *Reliques of Ancient English Poetry*』(1765年)など北方文学の独自の価値を強調(ゲルマン・ルネサンス)。デンマーク宰相ベアnstorf (Johann Hartwig Ernst von Bernstorff 1712-1772)の招請を受けコペンハーゲンに移住。詩人クロプシュトック (Friedrich Gottlieb Klopstock 1724-1803)らとともにドイツ人サークルの中心人物となる。ヨハネス・イーヴァル (Johannes Ewald 1743-81) やシャク・フォン・スタフェルト (Schack von Staffeldt 1769-1826)らデンマーク語詩人がバラッド詩を書く契機となる。



3. ゲルマン・ルネサンス期以後のデンマーク・バラッドの伝播

● ドイツ語圏

J・G・ヘルダー (Johann Gottfried Herder 1744-1803)

ハード (Richard Hurd 1720-1808)、パーシー (Thomas Percy 1729-1811)、ウォートン (Thomas Warton the younger 1728-1790) ら英語圏の古歌研究者の影響を受ける。スュウとゲルステンベルクを範として『民衆歌謡 *Volkslieder*』(1778-79年)を刊行。収録歌「ハンノキの王の娘 *Erlkönigs Tochter*」はデンマーク・バラッド「妖精の一撃 *Elverskud*」からの改作で、ゲーテの詩「ハンノキの王 (魔王) *Erlkönig*」の素材となった。

W・C・グリム (Wilhelm Carl Grimm 1786-1859)

『古デンマーク語の英雄歌謡・バラッド・おとぎ話』(1811年)を刊行。それまで宗教改革期もしくは早くとも13世紀初頭の成立と考えられていた英雄バラッドの起源を、ゲルマン民族移動期(5・6世紀)に求めた。一方で、デンマーク・バラッドをゲルマン語文学の大きな体系の中に位置づけるゲルステンベルクやヘルダーと異なり、バラッドの独自性を強調した。

ハインリヒ・ハイネ (Heinrich Heine 1797-1856)

グリムの著作を通じデンマーク・バラッドに関心を抱く。パリ移住(1831年)後に書かれた『四大の精霊 *Elementargeister*』(1837年)では、デンマーク・バラッドに登場する妖精や水妖といった反キリスト教的形象に注目。同著のフランス語訳が『ドイツについて *De l'Allemagne*』(1835年)の第4部に収められ、ロマンス語圏への北欧バラッド紹介の嚆矢となった。未完の怪奇小説『フォン・シュナーベレヴォプスキ氏の回想より *Aus den Memoiren des Herren von Schnabelewopski*』(1833年)にはデンマーク・バラッドからのアダプテーションが多数みられる。『新詩集』(1844年)所収の「水妖 *Die Nixen*」の着想源はデンマーク歌謡「妖精の丘 *Elverhøj*」。

● 英語圏

マシュー・グレゴリー・ルイス (Matthew Gregory Lewis 1775-1818)

ドイツ語文学に親しみ、ゲーテやビュルガーに倣ってバラッド詩を創作。ゴシック小説『マンク *The Monk*』(1796年)に挿入されるデンマーク・バラッド「水の王」はヘルダーからの重訳。

ロバート・ジェイミソン (Robert Jamieson 1772-1844)

『民衆バラッドと歌謡 *Popular Ballads and Songs*』(1806年)にデンマーク・バラッド4篇を収録(ルイスがすでに紹介した3篇を含む)。ドイツ語訳を介さずデンマーク語原典から翻訳された最初の例。デンマークとスコットランドのバラッドの近縁関係を素朴に信じていた。

ウォルター・スコット (Walter Scott 1771-1832)

ルイスとジェイミソンを介してデンマーク・バラッドに関心を抱く。『湖の麗人 *The Lady of the Lake*』(1810年)の挿入歌「アリス・ブランド *Alice Brand*」は、ヴィーゼルとスユウから着想。

ジョージ・バロウ (George Borrow 1803-1881)

『ロマンティック・バラッド集 *Romantic Ballads*』(1826年)に近代の英語詩・北欧語詩を収録したほか、デンマーク・バラッドを「未開なる荘厳 (*barbaric grandeur*)」と評価。スユウの『デンマーク・バラッド百選補遺』を英語に完訳し、没後刊行される。

4. 「バラッド (ballade / vise)」から「フォルケヴィーセ (folkeviser)」へ 「ホルガ論争 (Holgerfejden)」(1789-90年)

ヴィーラントの『オーベロン *Oberon*』(1780年)に触発されてイエンス・バゲセン (Jens Baggesen 1764-1826) がオペラ『ホルガ・ダンスケ (デーン人ホルガ) *Holger Danske*』(作曲 F・L・Æ・クンツェン) を発表。デンマークの英雄バラッドを素材にしながらドイツの音楽様式で上演したことが国内の反ドイツ感情を刺激する。ナポレオン戦争に敗北後、ナショナリズムが高潮する中かつての反バゲセン陣営の共編で『中世デンマーク・バラッド選集 *Udvalgte danske Viser fra Middelalderen*』(1812-14年)全5巻が刊行される (ヴィーゼルとスユウが底本)。

スヴェン・グロントヴィ (Svend Grundtvig 1824-1883)

教育思想家 N・F・S・グロントヴィの息子。第一次スリースヴィ戦争 (1848-50) への従軍を経て、『デンマークの古いフォルケヴィーセ *Danmarks gamle Folkeviser*』を断続的に刊行、英雄バラッドを国民精神の象徴とする。英語・スコットランド語・フェーロー語のバラッドとの比較にも関心を示し、チャイルド (Francis James Child 1825-1896) に書簡で分類法を伝授。



スキュー (Skive) のマーケットでバラッドを愉しむ人びと (ハンス・スミット作、1867年、個人蔵)

イーヴァル・タング・クリステンセン (Evald Tang Kristensen 1843-1929)

ユラン半島各地のフォークロアを重点的に収集し、3348人からの聴き取りを元に24000ページにのぼるフィールドノートを書いた。東部の島嶼地域にはほとんど調査に出かけなかったが、全国の同好者と広く協力関係を結び、3000のフォルケヴィーセ（メロディーつきは1000曲）、2450の民話（folkeeventyr）、15000を超える伝説（sagn）、俚諺（ordsprog）、韻律（rim）、謎かけ（gåde）のほか、日常習俗や生活誌に関する万単位の記録を提供される。実地調査では速筆の才を発揮したうえ省略記号を独自に改良することで、語り手の話を中断することなく緻密なフィールドノートを作成。職業カメラマンを同伴し蓄音機も活用しながら、地方言語や生活環境の差異、インフォーマントの個人史を記録に反映した。



蓄音機にバラッドを吹き込むヘニングの住人ピーダ・サアンスン・フルー（Peder Sørensen Fløe、右）。傍らで補助するオーストラリア出身の音楽家パーシー・グレインジャー（Percy Grainger、中央）と、同時並行で記録するイーヴァル・タング・クリステンセン（左）。1908年、H・P・ハンセン撮影。

小括

- 18世紀のゲルマン・ルネサンスの潮流とともにデンマーク・バラッドの紹介が活発化
- 独・英で形成された「北欧」像…周縁、質朴、高貴なる野蛮、神秘性
- N・F・S・グロントヴィによる「声の文化」の復権
- グリムの説を根拠に、英雄バラッドをスカンディナヴィア民族固有の遺産として特権化し、ドイツ語文化との断絶とデンマーク・ナショナリズムの高揚に利用
- 「外に失われたものを内に取り返す」…1864年の敗戦後、印刷メディアと交通網の発達にともないローカルなものに注目が集まる→「内」の多元性は「外」との連続性の根拠に

5. バラッド「大蛇 *Lindormen*」(DgF65D)

¹あてなるインガリルは籠の中に座り

金のハーブを美しくかきならす。

そうして男たちが堀を越えて駆けてきた。

²女が金のハーブをマントの下に押し入れると、

大蛇がずいずいと入ってくる。

³「やあ、あてなるインガリル、美しくもたおやかな人よ、

俺の恋人になる気はないか？」

⁴「どうして灰色の大蛇と契りを交わしましょう？

昨日私のところに、それはそれは敬虔な王子様がみえられましたわ。

⁵どうして醜い大蛇と契りを交わしましょう？

昨日私のところに、それはそれは優しい王子様がいらっしゃいましたわ。」

⁶大蛇は去った、ゆるゆると大蛇は這っていった、

後に残ったあてなるインガリルは顔が真っ青。

⁷それから彼女は天井裏に行って、

自分の姉妹ふたりと会った。

⁸「ねえ、あてなるインガリル、美しくもたおやかな人、

どうして大蛇と逢引きなんかしたの？」

⁹「大蛇と逢引きしたわ、

私の運命のため、運命が私に酷だったために。」

¹⁰美しい乙女は右手を差し伸べた。

「見えるでしょう、私の運命が私の手に書かれているのよ。」

¹¹夜ごと女は醜い大蛇のそばに身を横たえ、

朝な優しい王子の傍らに目を覚ますこととなった。

¹²夜ごと女は灰色の大蛇のそばに身を横たえ、
朝な敬虔な王子の傍らに目を覚ますこととなった。
そうして男たちは堀を越えて駆けてくる。

¹Stalt Ingerlil hun sidder i bure
Og slår på guldharpn så prude.
Og de iled over volden.

²Hun slår på guldharpn under skind,
Så kommer den lindworm skridendes ind.

³»Og hør du, stalt Ingerlil, båd' favr og fin,
Og vil du nu være allerkæresten min?«

⁴»Hvordan skuld' jeg love mig en lindworm grå?
Igår var ved mig en kongesøn så from.

⁵Hvordan skuld' jeg love mig en lindworm led?
Igår var ved mig en kongesøn så blid.«

⁶Den lindworm han gik, og sagtelig han krøb,
Bag efter gik stalt Ingerlil, var i hoveden så bleg.

⁷Og der hun kom på brede-en bro,
Der møder hendes søskende to.

⁸»Og hør du, stalt Ingerlil, båd' favr og fin,
Hvordan er du kommen i lindeworm-leg?«

⁹»Sådan er jeg kommen i lindeworm-leg,
For min skæbning og den har været mig ubild.«

¹⁰Skøn jomfru slog ud hendes højre hånd:

»Og der kan de se, min skæbning står skreven i min hånd.«

¹¹Om natten lå hun sig ved en lindeworm led,
Om morgen vågned' hun ved en kongesøn så blid.

¹²Om natten lå hun sig ved en lindeworm grå,
Om morgen vågned hun ved en kongesøn så from.
Og de iled over volden.

- 1874年、イーヴァル・タング・クリステンセンがヴィボー（Viborg）近くのリン（Rind）の住人エーネ・マリーイ・イエンスダッター（Ane Marie Jensdatter 1829-1911）から聴取。スユウのバラッド集に収録されているほか、19世紀に採集された民話形式の伝承が4点残る。
- インガリルと大蛇が誘発する相互の欲望
- 「夜ごと女は醜い大蛇のそばに身を横たえ」以下の官能的な描写は貴族系の稿本では抑制され、大蛇がインガリルとともに山に入ると同時に男に変身するという内容になっている。
- スユウのバラッド集（1695年）では、「女は跪き祈りを捧げた。／「ああ、お救いを、マリアの子よ！」」というキリスト教的に美しく荘厳化された文句になっている（1847年、N・F・S・グロントヴィ編のバラッド集にも再録）。



1844年のデンマーク地図（Det Kongelige Bibliotek 所蔵）

参照文献

- Abrahamson, Werner Hans Frederik o. a. (udg.): *Udvalgte danske Viser fra Middelalderen I - V*. J. F. Schultz 1812-14.
- Boie, Jenni: *Volkstumsarbeit und Grenzregion – Volkskundliches Wissens als Ressource ethnischer Identitätspolitik in Schleswig-Holstein 1920-1930*. Waxmann 2013.
- Borrow, George: *Romantic Ballads - Translated from the Danish and Miscellaneous Pieces*. John Taylor 1826.
- Bredsdorff, Elias: “Danish Literature as Seen through British and American Eyes before 1900”. i: Marx, Leonie og Knust, Herbert (udg.): *Grenzerfahrung – Grenzüberschreitung. Studien zu den Literaturen Skandinaviens und Deutschlands. Festschrift für P. M. Mitchell*. Carl Winter Universitätsverlag 1989, s. 119-126.
- バーク、ピーター 『ヨーロッパの民衆文化』(中村賢二郎・谷泰訳)、人文書院、1988年 [原著 1978年]。
- Clausen, Julius: *Skandinavismen – Historisk fremstillet*. Det Nordiske Forlag 1900.
- Dal, Erik (red.): *Danske Viser – Folkeviser • Skæmt • Efterklang*. Rosenkilde og Bagger 1962.
- Eaton, J. W.: *The German Influence in Danish Literature – The German Circle in Copenhagen 1750-1770*. Cambridge 1929.
- Fischer, Frances J.: “Scotland’s Nordic Ballads”. i: McKean, Thomas A. (red.): *The Flowering Thorn - International Ballad Studies*. Utah State University Press 2003, s. 307-317.
- Fjågesund, Peter: “British Perceptions of Nordic Peripheries - An Historical Survey”. i: *Scandinavica* Vol 56 (No. 1). 2017, s. 12-33.
- Frandsen, Ernst (red.): *Danske Folkeviser – Trylleviser • Kæmpeviser • Historiske Viser I - II*. Thaning og Appels Forlag 1971.
- Gerecke, Anne-Bitt: “»Originalcharakter« - Konzeption und Imagination des »Nordischen« bei Heinrich Wilhelm von Gerstenberg”. i: Detering, Heinrich / Gerecke, Anne-Bitt / Mylius, Johan de (red.): *Dänisch-deutsche Doppelgänger - Transnationale und bikulturelle Literatur zwischen Barock und Moderne*. Wallstein 2001, s. 63-76.
- Grimm, Wilhelm: *Alddänische Heldenlieder, Balladen und Märchen*. Mohr und Zimmer 1811.
- ホール、サイモン・W 『オークニー文学史』(川畑彰ほか訳)、あるば書房、2014年。
- Hansen, Lene Halskov: “Kædedans i Danmark – om danseglæde og om den forsvundne kædedans i dansk balladeforskning”. i: *Folk og Kultur; Årbog for Dansk Etnologi og Folkemindevidenskab*. 2005, s. 53-69.
- Harrits, Flemming: “Indfoldethedens lykke - Trylleviser”. i: Schmidt, Povl o. a. (red.): *Læsninger i dansk litteratur Iste bind, 1200-1820*. Odense Universitetsforlag 2001, s. 52-65.
- ハイネ、ハインリヒ 『流刑の神々 精霊物語』(小沢俊夫訳)、岩波書店、1980年。
- Henningsen, Bernd: “Johann Gottfried Herder and the North - Elements of a Process of Construction”. i: Povlsen, Karen Klitgaard (red.): *Northbound*. Aarhus University Press 2007, s. 89-110.
- Hustvedt, Sigurd Bernhard: *Ballad Books and Ballad Men - Raids and Rescues in Britain, America, and the Scandinavian North since 1800*. Harvard University Press 1930.

- Jamieson, Robert: *Popular Ballads and Songs - From Tradition, Manuscripts, and Scarce Editions* I - II. Archibald Constable and Co. 1806.
- Kongsted, Ole: “Om Holger Danske og Holger-fejden”. i: Kolding Nielsen, Erland (red.): *Magasin fra Det Kongelige Bibliotek*, 10de årgang, nr. 4. Det Kongelige Bibliotek 1996, 19–31
- 今野哲也「デンマークの伝承譚詩からゲーテの『ハンノキの王』への発展過程の考察—シューベルト《魔王》D328の総理解に向けて—」、『芸術研究 11』、玉川大学芸術学部、2019年、33-47ページ。
- Kværndrup, Sigurd: “Balladen som forskningshistorie og intermedial kunstform”. i: Eriksson, Karin (red.): *I fråst och i källe – texter från nordiskt ballademöte, Växjö, 2008*. [Elektronisk resurs] 2009, s. 1-15.
- Lindow, John: “The Challenge of Folklore to Medieval Studies”. i: *Humanities* vol. 7. 2018, s. 15-23.
- Lorenzen, Jørgen (red.) / Olsen, Ib Spang (illst.): *Et Hundrede udvalgte Danske Viser*, Andet Bind. G. E. C. Gad 1974.
- Møller, Andreas Hjort: “Bards, Ballads, and Barbarians in Jena - Germanic Medievalism in the Early Works of Friedrich Schlegel”. i: *Journal for the Study of Romanticisms*, Volume 8. 2019, s. 13-34.
- Møller, Lis: “Travelling Ballads - The Dissemination of Danish Medieval Ballads in Germany and Britain, 1760s to 1830s”. i: Ringgaard, Dan / Thomsen, Mads Rosendahl (red.): *Danish Literature as World Literature*. Bloomsbury 2017, s. 31-51.
- Nielsen, Marita Akhøj: “Tragica - et led i folkevisoverleveringen”. i: *Danske Studier*, 90. bind. Universitets-Jubilæets danske Samfund 1995, s. 90-101.
- Nielsen, Svend: “Dansk Folkemindesamlings indspilning af valseoptagelser i Danmark 1907–1949”. i: Eriksson, Karin (red.): *I fråst och i källe – texter från nordiskt ballademöte, Växjö, 2008*. [Elektronisk resurs] 2009, s. 88-95.
- Saphores, Blanche: *Child ballads in the Post-War British Folk Revival*.
- Scott, Walter: *The Lady of the Lake*. John Ballantyne and Company 1810.
- 清水誠『北歐アイスランド文学の歩み 白夜と氷河の国の六世紀』、現代図書、2009年。
- Syndergaard, Larry: “Scholar, Antischolar - Sir Alexander Gray’s Translations of the Danish Ballads”. i: McKean, Thomas A.(red.): *The Flowering Thorn - International Ballad Studies*. Utah State University Press 2003, s. 183-192.
- Thorsen, P. G.: *Om Runernes Brug til Skrift udenfor det monumentale*. Thieles Bogtrykkeri 1877.
- 山野邊五十鈴編著『デンマーク古フォルクヴェーサ 中世バラッド序章』、大学書林、1996年。